



## 「子どもたちに平和な未来を 2024」を開催しました！

8月22日（木）に「子どもたちに平和な未来を 2024」を開催しました。「子どもたちに平和な未来を」は千葉県生協連と千葉県内の4つの地域生協（パルシステム千葉、コープみらい、生活クラブ、なのはな生協）による実行委員会形式で開催され、子どもたちに「平和の大切さ」と「核兵器の廃絶」を訴える取り組みを毎年おこなっています。2024年度は「ちっちゃいこえに耳をすませばあなたの平和がみえてくる」と題して開催され、講師には詩人、絵本作家、翻訳家、ラジオパーソナリティなど多岐にわたる活動を日本語でされているアメリカ人のアーサー・ビナードさんをお迎えしました。

はじめに高橋由美子実行委員長（パルシステム千葉理事長）より子どもたちに向けて平和を伝える活動をおこなう本企画の主旨についてと、実行委員をつとめる生活協同組合について説明がありました。



高橋実行委員長



前半は、アメリカの童謡を翻訳した絵本で、言葉の音の面白さを紹介しながらその童謡を歌いました。そして子どもたちに「平和の反対の言葉って何だと思う？」「良い悪いとは別として、平和と戦争ってどっちが面白そう？」など子どもたちがイメージを膨らませ、考える問いかけをしながら説明とともに話を進めました。次の絵本はアーサーさんが翻訳したイタリアの絵本ですが、何回も原書を見ているうち挿絵が広島と長崎に落とされた2種類の原爆（ウランとプルトニウム）と描きわけていることに気づいたことなどを話してくれました。前半の最後には紙芝居「ちっちゃいこえ」の上演でした。この紙芝居は、丸木夫妻が32年間かけて制作された「原爆の図」をみたアーサーさんが、絵の中に描かれた生き物たちの声を想像しながら7年かけて作成した紙芝居です。上演後には、「平和」という言葉の後ろにあるものについて考えてみてという投げかけがありました。



後半は、この企画に参加した時間のなかで、自分が思ったことなんでも書いてみようというアーサーさんから提案がありました。漠然とした投げかけでしたが、一生懸命思ったことを言葉で表現し、全員がアーサーさんとやり取りをすることができました。アーサーさんは、子どもたちの緊張がほぐれるように面白Tシャツに着替え、それが子どもたちにとっても好評でした。

休憩時間に展示した本を熱心に読む参加者

**子どもたちのかんじたこと(発表の一部)**

・チクタク時計の音がする・海の近くは波の音がする・えんぴつで紙に書くとかたかたと音がする・いろいろな音がある・マグネットと磁石をくっつけるとカタッ…音がする・水が床におちたとき、ポチャンと音がする・夏と言えば虫、海、プール

○アーサーさんから 大きな音ではなくて日常の小さな音。これは毎日が危機的な状況でないから気づくんだよね。小さな音から穏やかな日々が想像できる。平和ってことかな

・蚊は生きるために血を吸っているだけなのに人間が嫌い、バシッたたいて殺してしまう。そうしたらゴキブリだってかわいそう。生きているだけなのに人間に嫌われ殺されてしまう。人間のせいで絶滅した生物がたくさんいるから人間の事はなくてたくさんの生物のことも未来の事も考えていくのが大切だと思った。

○アーサーさんから 視点をかえることで、かわいそうという立場が変わる。いろいろな立場に立って感じてみると、見えなかったものが見えてくるね



**子どもたちのかんじたこと(発表の一部)**

・かわいそうで食べたい・お母さんの作るお好み焼きを食べたい・雨のどしゃぶりがすごかったから大変だった。  
 ・本が読みたい  
 ・あったかいものが食べたい・雨のせいでびしょびしょになったからさむい  
 ・戦争いやだ、戦いやいやだ  
 ・かわいいと思って買った筆箱が、すぐに風船がしぼんだようになつた。売っている物は信用できないと思った!

○アーサーさんから すごく良いことに気づいたね。疑問をもって自分で考えることは自分の生活を守るためにとても大事。

・ハエを飲んだおばあさんはゆかいでたのしい  
 ・友達かくる、自分が行く、参加する、暑い、寒い  
 歩く、帽子をかぶる、考える

○アーサーさんから この中から平和って思う言葉はなに? →まみどり  
 まみどりっておもしろい!! より集中した色が想像できるね。



**取り上げた絵本**

- 「ハエをのみこんだおばあさん」 シムズ・タバック作・絵 木坂涼 翻訳 フレーベル館
- 「キンコンカン戦争」 ジャンニ・ロダーリ著 ベフ絵 講談社
- 紙芝居「ちっちゃいこえ」 アーサー・ビナード作 童心社
- 「さがしています」 アーサー・ビナード 作 童心社